



保健だより 10月号

-素直で明るくたくましく-



令和6年10月4日
県立八頭高等学校

新制服が決定し、来年度からのブレザー・スラックス・スカート等の着こなしについて協議されつつあるこの頃です。いわゆる「ジェンダーレス制服」に移行していくわけですが、皆さんにとって日常の中で「一人一人の違いを認める」ことについて考えてみる機会はあるでしょうか。

「ピンクシャツデー」など、小さな積み重ねから…

10月末にPTA生徒指導委員会と生徒支援部とで「あいさつ運動」を実施しました。このときに「ピンクシャツ」を着用しました。ある生徒が「先生、男なのにピンク着てるー！」と教員に声をかけたそうです。カナダ発祥の「いじめ反対運動」のシンボルである「ピンクシャツデー」は、まさに「男子がピンクシャツを着たことから起こった実話」から始まったのです。（参照：「日本ピンクシャツデー公式サイト」<https://pink-shirt-day.com/>）

「男は〇〇、女は▲▲」等、無意識の偏見や思い込みから偏ったものの見方をしてしまうことを「アンコンシャスバイアス」といいます。私たちは、育った環境や思い込みから偏った見方をしていると気づくことがあります。「自分の間違い」に向き合うことは辛いことかもしれません。しかし、多様性のこの時代を生きるためには、互いに学び直しをしていく必要があります。

一人ひとりが違うから、違いを認め合う事が大切

例えば、「性的マイノリティ」の人は身近に「いない」「出会ったことがない」と思っていませんか？ 実は11人に1人いるといわれています。身近にその存在はある。けれど、本人が公表していないだけなのです。なぜでしょう…

性的マイノリティの人は「生きづらい思春期」を過ごすことが多いと言われます。特に10代ではロールモデルとなる大人が少ないため、大人になった自分を想像できなかったり、差別的な言動やネタを見聞きするとカミングアウトできない等の困りごとに直面する人があるそうです。

10月は人権教育講演会や人権教育LHRが予定されています。マイノリティや多様性について一緒に考えることで、「友達」「家族」「学校」のひとつでも安心な場所になることを願っています。

この機会に「違いを認め合うこと」等について、一緒に考えてみませんか。



※ピンクシャツ着用の第1回あいさつ運動の様子。初日は大人だけでしたが、翌日から生徒の参加がみられました。第2回あいさつ運動は、11月5日（火）～8日（金）に保護者・生徒・教職員で参加を予定しています。